

平成29年度 病害虫発生予報 第11号

平成30年2月16日
栃木県農業環境指導センター

○果菜類の病害虫の発生増加に注意しましょう！

予想期間 2月下旬～3月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比52.5%:ほ場率)。(－)
・向こう1か月の気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～+)
- (3) 対策 ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温湿度管理やかん水を行う。
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。
・発生が見られたらアフェットフロアブル等を散布する。
- (4) 備考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん蒸処理は避ける。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比139.6%:ほ場率、平年比25%:株率)。(±)
・向こう1か月の気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～+)
- (3) 対策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
・発病部位(果実、果梗等)は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
発生初期にファンタジスタ顆粒水和剤等を散布する。
- (4) 備考 ・曇雨天時には、過湿防止のため液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比25.8%:ほ場率、平年比21.4%:株率)。(－)
・向こう1か月の気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～－)
- (3) 対策 ・ハウス内の雑草はアザミウマ類の増殖源になるので除草する。
・ミツバチや天敵を導入している時期なので、発生が見られる場合はマツ乳剤[ミカンキアザミウマ]等のIGR剤を散布する。
・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する。
- (4) 備考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。
・スピノエース顆粒水和剤やディアナSCは、天敵やミツバチへの影響があるので注意する。
・[病害虫防除対策のポイントNO.19いちごのアザミウマ類](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比90.1%:ほ場率、平年比83.2%:株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～－)
- (3) 対策 ・ほ場をこまめに観察し、早期発見に努め、増殖する前に防除を行う。また、初発生は、ほ場の一部から始まりやすいので、発生密度が低い場合は、初発箇所周辺を中心に薬剤の部分散布やカブリダニ類の放飼で対応しても良い。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
また、葉・果実の傷みを防ぐため、乾きにくい雨天日等の散布を避ける。

- ・カブリダニ剤の追加放飼を行う際にハダニ類の発生が目立つ場合は、薬剤散布をしてから放飼する。
- (4) 備考
- ・天敵放飼から1～2週間は薬剤散布を避ける。
 - ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
- ・現在の発生量はやや少ない（平年比59%：ほ場率、平年比10.7%：株率）。（-）
 - ・向こう1か月の気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込み。（±～+）
- (3) 対策
- ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
 - ・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・発生状況に応じて、シグナムWDG等を散布する。
- (4) 備考
- ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に使用する。
 - ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
- ・現在の発生量は平年並（平年比88.6%：ほ場率、平年比96.5%：株率）。（±）
 - ・向こう1か月の気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込み。（±～-）
- (3) 対策
- ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
 - ・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やコロマイト水和剤等を散布する。
- (4) 備考
- ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

		現況	発生予想			現況	発生予想
いちご	コナジラミ類	平年並	平年並	トマト	コナジラミ類	やや少	やや少
	アブラムシ類	平年並	平年並		きゅうり	うどんこ病	やや多
トマト	葉かび病	平年並	平年並	にら	ネダニ類	平年並	平年並

春の病害虫防除対策

○いちご親株床

・親株床には病害虫の発生していない株を選別し、定植しましょう。

○施設野菜類の微小害虫

・施設野菜類のハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類といった微小害虫は、気温の上昇に伴い、急増します。ほ場をこまめに観察し、発生初期の防除を心掛けましょう。

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう！

○短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更に注意しましょう！

○同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間2月17日から3月16日 2月15日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は1週目は低い確率ともに60%で、2週目は平年並の確率50%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	40%	40%	20%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html> でもご覧になれます。